

令和4年度 自己評価及び学校関係者評価書

学校法人 光明学園
光明幼稚園

1. 基本目標・基本方針

- 「たくましい心 育てたい」を教育目標とし、伸びる力と可能性を子どもの発達に応じて引き出す指導

上記の教育目標に基づいて、本園は、“知育・徳育・体育・食育”をバランスよく7項目を掲げます。

1. 健康でいきいきした子ども
2. 感情の安定した子ども
3. 意欲的に何でも自分でしようとする子ども
4. 思いやりの心を持ち皆と協力できる子ども
5. 経験を活かしてよく考える子ども
6. 正しい感情表現ができる心情豊かな子ども
7. 粘り強く頑張る子ども

2. 学校評価の具体的な目標及び計画

幼稚園の教育課程の内容を再度確認し、研修への参加、園内研修、教職員の共通理解を図り、教育の質を高めていく。また、計画については保護者のニーズや地域とのつながりを確認することで、本園としてのビジョンを明確化し、幼稚園が今後担う役割について検討する。

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

評価項目	結果	取組状況
教育課程・指導計画が作成されているか	B	新型コロナウイルス対策も緩和され、保護者の方が参加される大きな行事や参観などもコロナ対策を行いながら例年に近い形で実施できた。教育活動の制限も少なくなり、今の子どもたちに無理のない教育カリキュラムを検討し実施した。
日常保育の為の環境構成を行っているか	B	園での事故防止に努め、実例を元に安全対策の見直しを図れるよう、情報収集をし、園として対策を速やかに立て、職員に周知するようにしている。全ての子どもに平等に幼児教育の保証がされるためには、保育室や園庭などの環境設定について常に話し合い、柔軟に変更されるべきだと考えている。また、環境を変える事で、子どもの姿を観察し園全体として自立できるようにしていきたい。その為、職員会議では、日々の保育の中での気づきについて話し合い環境構成に反映させている。
安全・衛生点検に心がけているか	A	新型コロナウイルス対策で換気に消毒3密を避けるように園内で徹底して心掛けている。暑い中での水分補給等も徹底している。
地域交流と貢献を心がけているか	A	コロナ禍で、地域との交流はまだ難しいが、緑地公園の花の植え付けに参加したり、小学校の校庭を借用しての運動会実施、小学校の生活科の授業の協力など、関わりの機会を持つことができた。
安全な環境構成(施設・設備の安全や防犯)を工夫したか	A	玄関扉の自動施錠のシステムや園庭から駐車場に出れない様に仮設フェンスを付け安全性を高めた。

幼稚園は教育活動や子どもの様子を家庭に分かりやすく伝えられたか	B	園だよりや連絡帳・お電話で密な連絡をとれる環境を作った。また、ホームページにも情報を公開し幼稚園の様子など公開している。一方で懇談での話し合いや相談においては少し不安を覚える保護者もいるので、安心できるような伝え方・話し方・意思疎通が図れるように職員の指導も進めていく。
記録の点検・確認が、なされているか	B	子ども達の日常の保育記録や行事などの記録や反省は、保育を評価・点検し、次の指導計画を立てることや、子どもに関する記録は必ず園長が目を通す事になっている。目的に合わせて、昨年度の行事等の内容を検討し計画に生かしていった。 子どもに関する情報は、鍵のかかる安全な保管場所を確保する。
保護者との関係をどのように取組んでいるか	A	日頃からお迎えの時間などには保護者に声をかけたり、バス通園児に対しても、電話連絡をこまめにする等、話ができる環境を心掛けている。全職員にも、保護者からの意見は、どんな些細な事も園長や副園長に報告をしてもらっている。初期対応の大切さや教職員の共通理解を徹底し、保護者・園児ともに安心して通える環境を整えている。

4、今後取り組むべき課題（自己評価について）

課 題	具体的な取り組み方法
安全な環境構成（施設・設備の安全や防犯）への取り組み	常に園内や部屋の環境面においても見直し、安全に関してもどんな危ない事があるか全教職員で話し合い、遊具・備品の安全確認チェックリストを準備し、危機管理意識を持てるようにしていきたい。小さな事故や怪我についても、状況の整理や原因の特定をはかり、職員と情報共有しながら、事故防止の対策を立てている。それには『報告・連絡・相談』が必要不可欠であり、日々意識しながら保育にのぞむようにしていく。
課 題	カリキュラムの目標
職員の教育に対する理解度の差の解消	自己評価では、経験年数の高い職員の方が評価の低い傾向が見られた。園の掲げる教育目標やカリキュラムにしっかりと向き合い自身の課題を見つけられている職員と、毎日の業務をこなせていることに満足している職員との意識の差が生まれているようである。この意識の差を解消出来るように園の方針教育理念などカリキュラムだけでなく、子どもに対する教育の重要性も伝えていけるように努める。

5、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	具体的な取り組みを日常から行うために、テーマごとに教職員全員がそれぞれの課題に関して職員会議の折に提案や話題提供を行い、問題解決の仕方も学んでいる。 研修などにも出来るだけ参加し、園児の為のクラス作り・園作りをしている。コロナが収束し保護者との関係が少しずつ増えてくる中、対話の重要性が感じられる結果となった。職員のコミュニケーションスキルの向上をはかりたい。

6、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程や指導計画の 早期作成	在園児の成長を具体的に次年度入園してくる子どもの姿を考えながら、話し合い計画を立てていく。 今後の幼稚園教育要領をもとに各クラスの1年間の指導計画を立てる必要があり、最終的に連続性のある指導計画を組み立てていく。この指導計画に対して、園内研修や研修会に参加して皆が共通理解し同じ方向へ向けるようにしていきたい。

7、学校関係者評価

新型コロナウイルス感染症も少しずつ緩和され、保護者参観日や大きな行事も対策を講じて例年に近い形で実施され、子どもたちの園生活の維持ができ、成長の機会を奪われずに運営がなされていた。

8. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。